

# 真 栄



上記QRコードより  
真栄中学校HPにア  
クセスすることが  
できます

令和2年3月13日（金） 特別号

## 第30回卒業証書授与式 学校長 式辞

例年に比べて春の訪れが早く感じる今日の良き日に、晴れの卒業の日を迎えた169名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの門出の日を心よりお祝い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、日本中が厳戒態勢となり、通常の卒業式を行うことができなくなったことを、卒業生の皆さんには申し訳なく思っています。本来であれば、多くの来賓の方、地域の方々、在校生と一緒に祝うはずでしたが、皆さんの健康、感染拡大の防止を最優先と考えたことを、理解してほしいと思います。

さて、卒業生の皆さん、卒業証書を一人一人に渡しました。9年間の義務教育を終えたことは、自分だけではなく家族全員が無事に終えた節目を感じていると思います。中学校時代の3年間というのは、心も体も大きく成長し、皆さんにとっても、多くの経験をしたはずです。自分の周りにお世話になった方々への感謝の気持ちと共に、これからは自立する決意の日であることを感じてほしいと思います。

卒業生の皆さんとはこの学校で1年間一緒に過ごしました。1、2年生の時のことは直接にはわかりませんが、この一年間の皆さんの様子は、普段の廊下での挨拶、行事での活躍ぶりなど、多くの場面において見ることができました。中学校生活で大きな成長をしたと思っています。特に、最上級生としての自覚が芽生えたこの一年間の姿は、様々な場面を通して心に残ることがたくさんありました。皆さんにとっても一生の思い出となったはずです。

「歯車」の旗印の下、集団力を身につけた修学旅行、テーマ「花火」を様々な形で表現した学校祭、そして、圧巻の合唱コンクール、どの行事においても、学級のリーダーが準備から本番当日まで意欲的に仲間を導き、今までの最高の姿を見せることができました。そして、開校30周年記念式典の合唱、皆さんが学校に残した様々な取組は、在校生の心にもしっかりと残っています。真栄中学校の歴史にまた一つ、記憶を刻むことができたと思います。

皆さんは4月からはそれぞれの道を進むこととなります。これからの時代は、予測が不可能といわれる社会とされていますが、グローバル化、情報化の中で、世の中の出来事はどんどん変化しています。AIの発達による、機械化、自動化がさらに進み、今の職業の半分が無くなると予測されています。また、人生百年時代と言われるように、長い人生をどう生き抜くのかを考える必要があります。札幌市はめざす人間像として「自立した札幌人」を掲げていますが、みなさんが大人になり、日本を支えていく一人として、資質や能力を備え、様々な状況に対応できる判断力が求められます。

私の夢の一つに、スペインのバルセロナにある「サグラダ・ファミリア（聖家族教会）」を見に行くことができました。アントニオ・ガウディが設計し、1882年、今から138年前から作り始めました。ガウディが生きていた時は、完成するのに300年はかかると言われていたので、私が生きている間に完成する姿は見られないと思い、2003年に実際にバルセロナに行って見てきました。未完成であっても、その姿はとても感動したことを今でも覚えています。ところが、IT技術の向上と、世界遺産となったことで、寄付や拝観料収入が増え、2026年、あと6年で完成すると言われていました。生きている間に見ることができないと思っていたことが可能になる。時代はどんどん変化のスピードをあげていることに驚かされます。

昨年のノーベル化学賞は旭化成の吉野彰さんがリチウムイオン電池の開発で受賞されました。吉野さんは、若者に向けてこんな話をしています。「大切なのは、興味をもてるものを見つけることです。その



ために、いろいろなことを試し、刺激を受けてください。」一昨年ノーベル医学生理学賞を受賞した、京都大学特別教授の本庶佑さんは「自分にないものを持っている人と出会うことが成長につながる」「何ができるかではなく、何が知りたいかである」と話していました。また、同じ産業界からノーベル化学賞を受賞した島津製作所の田中耕一さんの言葉に、「失敗を恐れて何もしないと、結果的に何も生まれない」というものがありました。

本校の学校教育目標「未来をきり拓く、たくましく心やさしい生徒」の言葉に託されていることは、「時代のスピードに押し流されず、これから進んでいく自分の道を、失敗を恐れずに信念をもって進んでいく」という願いがあると思います。地道な努力が最後に実を結び、世界中の人たちのための仕事をした先人たちの言葉、「興味を持ち、いろいろなことに挑戦する」「人との出会いを大切に」「知ろうとする気持ちを持ち続ける」「失敗にくじけない心をつくる」これらの言葉を、卒業する皆さんへのはなむけの言葉といたします。

終わりになりましたが、卒業生の保護者の皆様、本日は本当におめでとうございます。中学校での生活はわずか3年間に過ぎませんが、人生の中でも一番心身の成長がある時期を無事に乗り切りました。これからは大人の社会に一步ずつ確実に近づいて参ります。温かく見守っていただくと同時に、最も身近な大人として、また、人生の良き先輩として、さらなるアドバイスをお願いいたします。

卒業生の皆さん、卒業によって四月から新しい環境の中で新たな出会いが待っています。皆さん一人一人が大きく羽ばたき、将来の夢を実現させて、立派な社会人として活躍することを心からお祈りし、式辞といたします。

令和2年3月13日  
札幌市立真栄中学校  
校長 平田 純逸

来賓を代表いたしましてPTA会長小熊様からの「来賓祝辞」、鈴木流歌さんからの「卒業生 お別れのことば」、中井希海さんからの「在校生 お祝いのことば」も紹介いたします。

## □ 来 賓 祝 辞 □

PTAを代表してお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

子どもたちが無事、真栄中学校を巣立ち、羽ばたいていくこの日を迎えられるのも、本日に至るまで、熱心にご指導くださった平田校長先生をはじめ、教職員の皆様のおかげと心より感謝しています。また、本日は御臨席を賜ることができませんでしたが、地域の皆様には、家庭や学校の目の届かない所で、子ども達を暖かく見守っていただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

3年前、まだ幼さが残る顔で入学式を迎えたのが昨日のこのように思い出されます。いつもであれば、皆さんの顔を見ながらお話をするのですが、残念ながら今日は紙面でお伝えすることになりました。義務教育が終わるこのおめでたい門出を、多くの人で祝ってあげられなくなったことがとても残念に思います。

卒業を迎えた皆さんは、中学校生活の3年間でたくましく成長した姿で、この場に臨んでいることと思います。今、皆さんの胸の内には、この真栄中学校で学んだこと。また、部活動や見学旅行など様々な思い出が駆け巡ると同時に、これから踏み出そうとしている新たな一歩への不安や期待など、様々な思いが交錯していることと思います。

今日の卒業式で中学校生活は終わりますが、それは同時に皆さん一人一人の新しいスタートでもあります。今までの友だちと離ればなれになってしまうこともあるでしょう、しかし、それぞれの進んだ道で新しい出会いが待っています。その時に、一つ心に留めておいてもらいたいことがあります。それは優しさと思いやりです。この二つは似ているようで、意味合いは大きく違います。優しいだけなら相手のことをどう思っているかが優しく振舞うことができますが、思いやりは相手のことを考えていないと成り立ちません。

皆さんにもっていただきたいのは単なる優しさではなく、「思いやりの心」です。この思いやりというのは、相手の心情をくみ取ったり、具体的な行動によって応援をしたり、相手のためになるのかどうかのバランスも考慮して行動することです。

例えると、1つは友だちが失敗したり困っている時に、その友だちの身になって考え、相談にのってあげたり、勇気づけてあげたりすることです。2つめは友だちが間違っていたり

疑問に思う行動を取ったりしている時に、注意をして改めるよう促したり、こうしたらいいのではないかと自分の考えをはっきりと言って、手本を示してあげることです。3つめは友だちがどうにもならず困っていたり、あきらめかけている時に、手をさしのべて助けてあげたり、一緒になって頑張ってみたりすることです。中学校、高校での友情はかけがえのない一生の宝物になります。今まで培ってきた友情、そしてこれから出会う新しい友情を、「思いやりの心」をもって育んで行って欲しいと思います。

一昨年9月の胆振東部地震によって私たちの住む清田区でも大きな被害を受け、全道的にもブラックアウトを経験しました。北海道にも台風が毎年上陸し、被害を受けるようになってきました。現在はコロナウイルスの影響で学校も休校になり、級友と共に過ごす卒業までの大切な時間が失われてしまいました。世の中何が起こるか分からない、想定外のことが普通に起こるようになりました。普段の日常を普通に送ることができる幸せを、皆さんは感じているのではないのでしょうか。平和な日常が呆気なく終わることもあります。普通に過ごせることに感謝し、日々を大切に悔いなく過ごすことを願って止みません。こういった時だからこそ、先ほど述べた「思いやりの心」を身近な友達や家族、というところから、学校や地域、そして社会へと範囲を広げて行って下さい。

皆さんは令和となって初めての真栄中卒業生です。新しい時代に向かって、自分の可能性を信じ、将来に夢をもって目標に立ち向かい、一人一人の大きな「花火」を打ち上げていただくことを期待しています。

卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。中学校の3年間は親にとってもあつという間に過ぎたことと思います。その中で真栄中学校のPTA活動に、多大なる御理解と、御協力をいただきましたこと、誠にありがとうございました。

最後に、卒業する皆さんの親として一言言わせて下さい。私たちの子供として生まれてきてくれて本当にありがとう、そしてこんなに大きく成長してくれてありがとう。もうしばらくすると皆さんは私たちの許を巣立って行きます。それまでの間、一緒に笑ったり泣いたり、楽しいことばかりではなく叱ったりすることもあるでしょう。私たちのことを口うるさいと思うかもしれませんが、うざいと思うかもしれませんが、ですが、家族として大切な時間をもう少しの間一緒に歩ませて下さい。そして、大人になった皆さんに「あなた達の子供で良かった」と言ってもらえるように日々精進して行くので、これからもよろしくお祈りします。

今日は、皆さんと共にこの場で卒業を祝うことはできませんでしたが、卒業する皆さん一人一人が、自分らしく、素晴らしい未来を歩んでいくことを心より願い、お祝いの言葉いたします

令和2年3月13日  
札幌市立真栄中学校PTA  
会長 小熊 毅

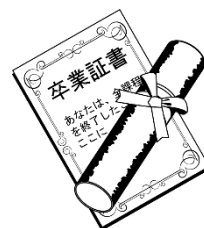
## □ 卒業生 お別れのことば □

僕たちにも、この真栄中学校との別れの時が近づいてきました。入学してきたときに、ただ、広いなあ、としか思わなかったこの体育館も、1階だと思っていたら実は2階だったと知り驚いた玄関も、場所が覚えられなかった移動教室も、今は見慣れた日常の一部になりました。そして今日、3年間をともに過ごした仲間、先生方と一緒に卒業式を迎えることができ、本当にうれしく思います。

今、思いもよらなかった全国一斉休校で、僕たちにあるはずだった卒業前の時間は失われました。卒業式自体がなくなっている学校もある中、こうして卒業式を行うことができるのは、先生方のおかげです。本当に感謝しています。この学校で学んだことの多くは、先生方からです。勉強はもちろん、人として大切なことを多く学びました。先生方の教え、支えがあって、僕たちは今日まで、大変なことがあっても頑張ってくることができました。本当にありがとうございました。先生方に、一つお願いがあります。真栄中の後輩のみなさんに、このメッセージを伝えてください。

1、2年生のみなさんへ

みなさんとのお別れの時間がなくなってしまい、本当に残念です。今ここでは伝えることができませんが、僕が卒業生を代表して、みなさんに伝えたかったことが二つあります。



一つは、この学校の伝統である、挨拶と合唱のことです。どうか、これからこの学校で過ごす残りの1年、または2年間、真栄中の伝統を大切に守ってください。

もう一つは、今しかない今という時間を全力で生きるということです。僕たちは、思いもよらず卒業前の大切な時間を失い、もっとたくさん、みんなと過ごしたかったという後悔が残っています。皆さんには悔いが残らないよう、全力で今を生きてほしいのです。必ず未来は拓けると、僕は思っています。頑張ってください。

最後に3年生の仲間たちへ

僕はみんなに助けられ、会長としてやってこられました。楽しい思い出もできました。みんなへの思いは、僕が言い続けた「花火」です。僕の好きな言葉に「the past should give us hope」というものがあります。「過去が希望をくれる」という意味です。これから先、つらい時、苦しい時、力をくれるのは過去。ここで過ごした日々、数々の思い出はこれから先、僕たちの力になってくれることでしょう。

僕は今ここで話をしています。これから先も新しい場所で生きていきます。つらいことは絶対にあるでしょう。絶望することもあるかもしれませんが。そんな時、僕は必ずここでの時間を思い出します。みんなとの思い出を。なぜならそれはもう、変わることもない、僕たちを支えてくれる大切な過去だから。

みなさんのおかげで、本当に楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございます。そしてさようなら。またいつか、この学び舎での思い出を、未来で語り合う日が来るそのときまで。

令和2年 3月13日  
卒業生代表 鈴木 流歌

## □ 在校生 お祝いのことば □

3年生のみなさんが、3年間の中学校生活を終えて、自分の選んだ道へと旅立つこの年に、私たちには想像もつかなかったようなことが次々と起こりました。

送別集会で感謝の思いを伝えられなかったこと、卒業式で3年生のみなさんの姿をこの目で見て、直接送り出せないこと、今この文章を考えている時間も悔しい気持ちでいっぱいです。それでも、こうしてみなさんに思いを伝える機会をいただき、本当にうれしく思います。改めて、在校生一同を代表し、心からお祝い申し上げます。

ご卒業、おめでとうございます。

私たちは学校生活を送る中で、みなさんから多くのことを学びました。部活動では、目標に向かって努力を惜しまず、それぞれ思いをもって練習に取り組む先輩たちの姿を見て来ました。今でも先輩方と同じようにできないことがまだまだたくさんあります。それでも、先輩方がそうだったように、私たちもたくさん悩んで、最後にはよかったといえる、そんな部活動をしていきたいです。

学校祭では、最高の思い出をつくるため、全校を盛り上げるために、準備から悩み、苦勞し、そして協力し合い、当日は全校生徒が一つになって楽しめる最高の学校祭になりました。3年生と一緒に作り上げた学校祭は、たくさんの人の心に残っていると思います。

合唱コンクールでは、クラス全員の努力、合唱を伝統とする真栄中学校での3年間が感じられる、素晴らしい合唱を私たちに聴かせてくれました。

先輩方が私たちに見せてくれた姿は、様々な困難を乗り越えてたどり着いた姿だったと、今、私は改めて思います。その姿から、私たち1、2年生は、諦めずに挑戦し続けることの大切さ、真栄中学校の最高学年としてあるべき姿を学びました。

私たちも、自分にできることを精一杯頑張り、先輩方から教わったことを後輩に伝え、学びの多い、より良い真栄中学校を創っていきたいです。

令和2年 3月13日  
在校生代表 中井 希海

令和2年度の卒業証書授与式は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、在校生や保護者、来賓が出席を見合わせ、開催時間が短縮される式典となりました。